平成29年5月01日



見

て

そ

の 放

救

援

活

動 た

を 死 ま

7

い の

る 姿

地

元

の

女性

た

ち

緒

に

1

凋

間

活

動

に

加

ま

西赤十字病院ニュ

〒384-2292(病院個別番号)

ホームページアドレス http://kawanishi.jrc.or.jp

長野県佐久市望月318

ン三世を尋

ね

. 戦

地

で赴

きま

場

に

置

さ に

れ

傷

者

メールアドレス

電話:0267-53-3011(代)

デュ

ナ

ンは

フラ

ンス

の

ナ

ポ

レ

ま ア

独

立

戦

ブェ

リー

の戦

で遡ります。

スイス人アンリ

kawanishi-med-jrc@shore.ocn.ne.jp

次

の

の

基

本

原則を掲げ、

本

0 な

·字 社 7

には

行

7

お

ŋ

ŧ

す。

方

右

の

文言

は

日

本赤十字社の

使

1

862年デュ

ナ

は

こ

の

強

フ

エ

IJ

間

の

い

のちと健康、

尊厳を守ります。

かなる状況下でも

いわ

た

し

たち

る人を救いた

です。

これ

とを実現

ずる.

た

めに

発行者:川西赤十字病院 院長 田村泰夫 FAX: 0267-53-5901

第108号

の

使

命

の

成

ち

赤十字基本7原則

独立 並 道

使

命

に

あ 有

た

7

て

が

共

7 つ

お

り

界

中

Ó

赤

十字

全

この

基本

原

則

は

ま す。

ぼ 赤 時 に 1 字 の お

ŋ

年、 第二次イタリ 8 5 9

す。 オ 第二次イタリア独立戦争 ソルフェリーノの戦い

(フランス帝国+サルデーニャ王国)vsオーストリア帝国

・参加戦闘員 約20万人(両軍)

• 死者 約5,500人(両軍)

・負傷者 約2万3,300人(両軍)

・戦闘の勝敗 フランス、サルデーニャ連合軍の勝ち。

ーストリアはイタリア半島に対する 影響力を失い、イタリア統一の気運が ·気に盛り上がる。

②赤十字運動のきっかけとなる。

性

ス 赤 の 機となり ジュネ ·字 社 ま \mathcal{O} ブで 誕 に 16 ケ 発 玉 年 展 が L ま 参 は

を目的 ع ا た 赤十 字 の 創 加 ス

なく負傷 体験を基に、 思 い 出 という本を出 者 の 救護 「ソル 版 設

に当たること 味 日 ح 本 に 敵 赤 う 味 日

兀 老院 た西南戦争勃発を契機に、 10 と佐野常民 .年)に ーネー 字の 88 方 議官大給恒 博 の 本 1 ·ブ条約 愛社」 |区別 赤十 6 社 精神を発露 ·方人以 年 の なく 母 <u>(</u>さ (明 を設 体 Ĺ (おぎゅ غ 救 の 治 の なり 印 立 つね 護 と改名 19 する博 戦死者 院に当 L 年) Ś ま た た んみ

た

ゅ

れ

が

に 至り ŧ

の

府

ジュネーブ条約

国家間での「傷病兵や捕虜」の 扱いを人道的なものとするため、 1864年に締結された国際条約。 別名赤十字条約。

現在では192ヶ国が加盟。

ちなみにこの条約に加盟した国 はその国の「赤十字」を設立し なければいけない。

末 臨丸でアメリ 60 方日本 年 期 (万 延 安政 . О 元 の 1 85 年 大獄 9 渡 は が 年 つ 勝 起 しきて 海 は 角らが 江 お 戸 時 り

咸

力

に

た年で

あ

りま

す。

それから

18

年

後

の

1

8 7 7

すが、

「ご家族も支える」という

私たちは、

患者様はもちろんで

気持ちで、

患者様もご家族様も穏

ます。 には最 院されるよりも在宅医療の方が適 つ 状が安定し進行が緩やかで、医療 者様の生活の質を損なうような、 ふれあいや生活の快適さなど、 自分らしく過ごしたい」という患 ある種の犠牲の上に成り立ってい れることは、 まるものです。病気で入院治療さ 者様の想いやご家族の想いから始 の家で療養したい」 ているかもしれません。 ている様な場合には、 緊急性よりも介護がベースとな 後の日々は思い出深い我が家で 在宅医療は、 ですから寝たきりでも、 適であっても、 病気そのものの治療 住み慣れた自分 、「できれば ご家族との 病院に入 患

> た不安も大きいことと思います。 あるいは急に容態が変化したとき はどのような準備が必要なのか、 にはどうすればよい しかし、 ご自宅での療養生活に のか、 といっ

り、 ます。 検 査、 者が、 もありますので、 ンターや居宅介護支援事業所 を受診することなく、 診療を行っていきます。 期的に訪問 リハビリ技師などの医療従事 は 活全般を支えていくことがで などとも連携し に加えて、 て継続的に、 私たち、 訪問看護ステーションがあ ムヘルパー、 医師をはじめ訪問看護師 また、 お薬の処方などを行 患者様のお住まいに定 川西赤十字病院に ケアマネジャー して、 地域包括支援セ 医学管理、 ながら療養生 医学的 計画的 そして行 診療、 病院 管理 経過 そし 政 ゃ い



のでしょうか? では在宅医療に 問

例えばデイサービスやショートス が時折の休息時間を持てるように ご家族の覚悟も必要になりますが、 も精神的にも疲れてしまいます。 れるご家族の負担です。 することも、 ティを利用して、 ていかなければならず、 番大きな問題は患者様を看 非常に大切なことに 介護するご家族 身体的に 24時間看



きます。

たちをご利用ください。

ついて、 ださい。お一人で、あるいはご家 どうぞお気軽に私たちにご相談く これからの療養について迷ってら っています。 階において、 っしゃる方、 適切な情報提供を行い、より穏や 観に基づいて判断できるように、 ることができるように支援させて 患者様の視点で介護の方法を検討 単に医療を提供するだけでなく せていただきたいと思っています。 やかに過ごせるようにお手伝いさ 族だけで悩まれるのではなく かに過ごせる一助になれば、 いただきます。また人生の最終段 現在色々と困ってらっしゃる方、 自立した生活の中で豊に老い お待ちしております。 患者様、 積極的な治療などに 等おられましたら、 ご家族様の死生 と思 私



これからどうしよう お退 めでとう

はじめに

が思 持ちではないでしょうか? 方がそうしたイメージをお 帰れること」 言葉を聞いてどのような事 「病気や怪我が治り自宅に 皆さまは c y 浮かばれますか? 「退院」と言う 多くの

とは もいらっ 違っ かし病気を抱え今まで た生 しや います。 活が始まる方

例えば、

- 突然の病気により自宅に戻るの が難しくなった。
- っ た。 身体に管が入ったまま退院とな
- た。 高齢で心身機能が低下し、 での生活が成り立ちにくくなっ 自宅
- 終末期の病だが、 退院した家族を自宅で介護した で過ごしたい。 いがやって行けるだろうか・・。 最後まで自宅

り巻く環境が何らかの転機を迎え てしまうのです。 患者さまとそのご家族さまを取 退院は大きな不安要素に

る時、

退院支援とは ?

の業務になります。 境で生活・療養出来るようにお手 納得して退院でき、 少しでも解消 伝いすることが、 う不安は様々ですが、 先述しましたように、退院に伴 退院支援部門で 患者様が安心 住み慣れた環 その不安が

ど必要な支援へと繋げていきます。 が難しくて患者様及びそのご家族 いただきながら社会資源の活用な 生活状況についてお話を聞かせて 場合など、 様が施設入所や転院を希望され の支援が必要な場合や、 在宅療養するにあたり、 患者様の身体的 在宅医療 | 状況 何らか た

退院支援 の流 れ

入が行われます。 退院後の生活を見据え、 きに始まるものではなく入院時か ら始まります。 退院支援は患者様が退院すると 入院したときから 支援の介

します。

ば、 看護師 れを基に支援が必要と判断されれ ーニング(選別)が行われます。 要因の有無」 等を判断するスクリ 要の有無」 まず、入院時に 患者様に関わる専門職(医師 栄養士・リハビリ等)で や「退院が困難になる 「退院支援 が必

> 院支援計画」 そのご家族の意向も加 話し合いが行われ、 このように入院早期から退院に を立てま 患者様本人や す。 味し 7 退

す。

院生活が送ることが可能となりま

後の不安を持つ方々が安心]けた支援ができることで、

して入

少しでも不安が軽減でき、 きますの ちも懸命にお手伝いさせていただ ても大きなストレスとなります。 にとっても、 まま退院することは、患者様本人 場に戻る際、 う治療の場から在宅という生活の 業務を行っております。 て退院していただけるよう、 当院の退院支援部門では、 社会福祉士一名で日々の で、 そのご家族様にとっ 様々な不安を抱えた よろしくお願 病院とい 安心し 私た



入院したときからもう既に、 退院 後の話し合いは進んでおります

ます。

日本赤十字社

日本赤十字社の災害救護活動の中に 「義援金の受付と配分.

があります。

ています。 当院では会計窓口へ 募った義援金は、 義援金箱を設置し、 被災地及び被災者の方に配分され 義援金の募集を行っ

去年度当院で集まった義援金額をお知らせいたします。

地方を中心に甚大なる被害をもたらし、今なお震災の後遺症は 同年4月1日以降に発生していた最大震度6 強の 地震災害。 熊 本

いています。

日本赤十字社は、

地震発生直後に救

護班 らdERU(緊急仮設診療所)を含む救 護班を派遣し、 30班以上が熊本県内に派遣され その後、 全国各支部 か





皆様から、 災された皆様に配分されております。 するため、 こ厚意が寄せられた他、 た。 当院でもご来院の患者様やそのご家族様 お寄せいただい 全国より義援金を広く受け付け 義援金が寄託されました。 た義援金は 佐久市浅科中学校の 全額 が 被 ま の

また、被災された方々の生活再建

の

助

لح

年 4月 生し、 ②2016年 リ沖地 幸いなことに津波は襲来しませんでしたが、 話しを聞いていた地元住民は懸命に高所に走ったそうです。不幸の中 をもたらしました。 日本の反対側、 震 死者661人、 16日18時5分(エクアドル時間)、マグニチュード の恐怖を想起させられる地震でした。 南米のエクアドルでも地震災害が発生しました。エクアドル地震救援金・4、712日 津波警報も発せられ 負傷者16600人、行方不明者5人の大災害 日本の 日本も 「東日本大震災」 1 9 7.8の地震が発 60年の 2 円







沖地震(昭和35年

平洋を渡って日本沿 死者142名の大 被害をもたらした。

3 平 成 28 年 度 Ν K 海 外 助 け 4 9 7 7 1 円

周 で苦しむ人々への支援 業の実施 ら身を守るため たものです。 年を記念して、 この募 金は昭 にあ たります。 日本赤十字社が寄付金を受付け、 の支援 和 Ν 26 HKと日本赤十字社のコラボ 年からテレ の この浄財 主 「災害で苦しむ人々への支援」、 に3つの レビ放送 は日本赤十字社が世界各国 30 分野に 周 年、 使 わ 国 際 せ 管理、 てい 赤十 Ι 集計、 ただきます。 ョンで創 字誕生1 の 病気 救 紛 援 設 2 か 争 事 さ 0

平成28年度は全国で

善意が寄せられました。 その使用計画は

45%災害支援 アフリカ地域の食料 危機支援 アジア地域の防災事業 アジア太平洋州地域で のサイクロン被災者支 26%紛争地への支援

約6億3千万円の

シリア・イラク・アフ ガニスタン・南スーダ ン等の犠牲者支援 23%病気への支援 アフリカ・アジア地域

での保険支援事業 エイズ・コレラ等突発 的な感染症対策 6%その他

募集管理費等

. 成 28年新 潟 県 糸 魚 Ш 市 規 模 火 (災義援

金

の

3

2

4

9

円

記 億に . 新 し ľί 新 潟県 糸 魚 Ш 市

じ め は 件 の お 店 から発生した火 で発

生した大規

模

な火災です。

は

ですが 密 集地であることと、

※フェ で瞬 ーン現象による折からの 蕳 に燃え広 がりました。 12

を行ないます。 きていない ⊠「言葉遣い んどできていない 々できてい る い ず

月 棟 11 22日昼 に及び、 なことに死者は出ませんでしたが、 前 地 に 域 発生し の 文化や住 鎮 火は 翌日夕方 民 の 精 神にも大きなダメ けまで約 負傷者 30 時 17 間 続 ١ 被害建 た火災で ジを与え 築物 まし す。 1 4 幸

協 力 4 た だ 4 た 方 々 に 深 < 感 謝 申 L げ ま す

患者サ ビス委員会の動き 接遇自己 目の実施結果につ いの ر ا

いたし ナー ⊠接遇自己チェックリストは 実施 いては、 員を対象に接遇自己チェックリス トを実施してい 職 ビス委員会では、 この を行ない の 員 ます。 ース秋号にて報告しました 向上を目的として、 一人ひとりの 度、 昨年7月に実施 今 年 1 ま ます。 た 月に 年2回、 更なる接 1 2回 を行 回目につ 患者サ ご な 全職 遇 目 言 の

葉遣い C にできている、 つの項目につい あまりできてい ・態度 ・身だしなみ」 В 7 な 時々できている ħ 5 Ε かでチ 段階 ま ったくで D Â , エ ツ ほ ع

割 割合が1回目は平均で75 (以 下 度 2回目は平 では常 「できて に % い

> し81 た% 。の は平均で3%の の 2回目は平均で8%の割合となり 均で92%の 同じく6%増 目は平均 な 加 で 割合となり、 「態度につい に で76%の割合でした た。 つい 割合でし 加しました。 ては 割 合となり 6 たが、 て %增 回目は 2 回 加 平 ま

思い 場に立って相手の考えや気持ちに 思いやるという言葉は、 る意味があります。 りまし できている割合が増える結果とな で ち関心を寄せる意味が含まれ 今回 ま やり を寄 の向 ずれの項目も1 ります。 た。 [の実施結果を踏 せたり、 の ができるよう取り 心 接遇の遇という言葉は をもってお世話 相手に また、 回 [目に比 まえ 興味 相手の立 にます。 手を を を す

一 院 取 組 み4

各部署のアクショ ンプラン (行動計画

当院広報誌で「川西赤十字病院

医療提供計画書」について地域の

組 書についての基本方針と重点施策 皆さまにご報告させていただいて に を具現化するため、各部署が取り おりますが、今回は医療提供計画 むアクションプラン(行動計画 ついて概要を報告いたします。

医局

行う。 積極的に 救急患者受け入れを

薬剤部

薬剤管理指導を強化、 0件以上を目標とする。 月10

リハビリテーション科部

在宅医療の拡大・強化を目標 に訪問リハビリテーションの 充実に努める。

検査技術課

患者向けの「検査項目臨 意義 一覧表」 を作成配布する。 床的

放射線技術課

る。 より良い画質と素早いデータ 課域内デジタル化を目標にす 検索を実現するため、 放射線

栄養課

外来・入院患者の栄養食事指 をする。 導の強化を図る。 養食時指導実施のための準備 また訪問栄

般病棟

地域連携室・リハビリテーシ 入院患者の確保に努める。 ョン科部との連携により、 回入退院調整会議を実施し、 週

療養病棟

努め、 地域連携室・リハビリテーシ 得する。 ョン科部との情報交換により、 介護・医療入院患者の確保に 入院時認知症加算を取

外来

疾患別定期検査システムの構 期検査件数の安定に努める。 築・運用により、 外来患者定

地域包括支援

外来・地域連携・病棟からの 情報を基にサービス調整及び 新規利用者のニーズに応える。

居宅介護支援

特定事業所体制加算Ⅲの取 者月平均5件の確保に努める。 と維持を図るため、 新規利用 得

訪問看護

新規利用者を継続的に受け入 への広報等を実施する。 れるため、近隣の介護支援員

地域医療連携室

病棟・リハビリテーション科 問診療の強化に努める。 リハビリの必要性を説明し、 部との連携により、退院後の 新規リハビリ、訪問看護、 訪

医療社会事業課

健診オプション項目の広報を の向上 積極的に行い、健診サービス に努める。

総務課

する。 化を行い、 患者送迎の範囲拡大等による 患者確保や、配置人員の適正 人件費比率を抑制

会 計 課

今後急増していく投資に対す 減に努める。 る適正な対応を行い、 費用削

医事課

平成30年度の診療報酬改定に 伴い、 提供する。 有益な情報や提案を院内外に 適正な情報把握に努め

さまの医療ニーズに応えていくた ン概要の一部ですが、 になっていく病院として地域の皆 実現してまいります。 以上が各部署のアクションプラ 職員一丸となって本計画書を 地域医療を

災 害時に お け る 高 齢 者 の 生 活 支 援

することが多く、また、 とれなかったり、避難が遅れたり 高齢者は 高齢者の被災が深刻化しています。 幾度と見舞われており、 への適応が不十分であり、 近 日本では大規模な災害に 危険を回避する行動が その中で 環境の変 避難

す。 すいため、 労等でより生活が不活発となりま 大切です。 一旦生じると悪循環を作りや 早期に対応することが

⊠☆予防 のポイント

ます。

予防のポイント

□水分摂取の必要性

を理解し、

こまめ

欲不振、

気温・湿度の変化等によ

りさらに脱水をおこしやすくなり

りやすく、災害時にはトイレに

行 な

⊠高齢者は一般的に脱水状態に

② 脱 水

くことや飲水量の確保の不安、食

- \boxtimes ・昼間は横にならないで動くよ うにするが、 め注意する。 転倒しやすいた
- X 片づけておく。 動きやすいように 身の回りを
- \boxtimes をする。 気分転換を兼ねて 散歩や 運 動

域の方の支援が不可欠であり、

ています。そのため、ご家族や地 活不活発病を生じやすいと言われ 生活により、

体調が悪化したり生

- \boxtimes す。 避難所でも何らかの役割を探
- \boxtimes |・ボランティアによる必要以上 の手助けを避ける。

災害時高齢者生活支援 \boxtimes 動けるのに横に ってばかりだ と本当に動けな くなる

図今回は、

とが大切です。

なく、適切に過ごせる為の知識や

高齢者が避難所等で不安や不自由 難所に誘導するだけにとどまらず

支援技術を身につけていただくこ

い」為に、 生活不活発病とは、 「動かない」でいる 「動きに

⊠⑴生活不活発病

講習の一部を紹介します。

言われたり、 の機能が低下することを言います。 と「動けなくなる」状態で、 で行っていた仕事ができなかった 避難所での生活は、 [由な環境になりがちです。 危険だから動 被災による心身の疲 かないようにと 動くことが不 自宅 心身

③風邪や食中毒

呼吸器感染症や食中毒が起こりや 理ができないなどでかかりやすく すくなります。特に高齢者は抵抗 なります。 力が弱く、水の使用制限、 集団生活をおくる避難所では、 食品管

※予防のポイント ⊠・手洗いうがいをする。

⊠・定期的な室内の換気をする。 食べ残し、 たものは廃棄する。 消費期限の過ぎ

インフルエンザの予防接種を

受けておく。

積極的に散歩等 の運動をしまし よう

暖房が不十分な場合は衣類や 毛布で保温する。

\bowtie 4 症候群 (肺塞栓)

ます。 ます。この塊が、肺の血管を詰ま ⊠狭い空間で体を自由に動かせな らせて肺塞栓を起こす恐れがあり 液の流れが悪くなり血の塊ができ い状態で長時間過ごすと、足の血

△☆予防のポイント

に水分を摂取する。

図・窮屈な場所に寝泊まりし

図・水分を十分にとる。

事以外にも10~

目安としては、

食

1.0を摂取する。

・定期的に体を動かす。

を開催しております。 この講習会の指導員の資格を持っ 時間程度の内容です。当院には、 実際には実技指導も交えながら2 は日赤主催で講習会もございます。 た職員が7名おり、 Z の「災害時高齢者生活支援 各地で講習会

必ず役に立つ日 りません。 の講習会、 いつ訪れるかわか いざという時は 受けて

みませんか? 講習会のお問い合わせ 日赤長野県支部事業推進課 (026-219-2563)までご連絡ください

-7-

往 来

1

南

澤

1)

か

5 採 用 S

2 リ

ハビリ

ション科部③

⑤趣味 主な理-)氏名② 西(7) 6 所属③業種④採用月日)現在の職 種 に 就 (1

た

言

病棟 ② 看 ① ± 看 護部 護 師 3 由 1 一般 美子 日 4 Н

29 年 <u>4</u> 7 ゎ からな 月 1)

ことばかりで、 ⑤映画鑑賞⑥ ますがよろしくお願 ご迷惑をお (1 Ĺ١ たしま か け

と思

ったのがきっ

か

け

です⑦少し

Н

29 年

3 月

31 日

外

来

看

護

師

河

村

順

でも早く仕事を覚えていけるよう

にしたいです。

Η

29 年

3 月

31 日

外

来

看

護師

山

 \blacksquare

公子

⑤散歩⑥人に関

わる仕

事

が

し

たい

29 年

4月

1日

病 棟

:看護師(

4

②看護部③

療 ゅ

養

5

退

職

1

横

山

ま

頑 張ります。

⑤旅行、 学療法士④H ムを食べること。 訪れた場所でソフトクリ 29年4月1日

礼佳(れ テー

を受ける機会があったことで興 必要とされる職員になれるように ではなく、 に 11 を持ちました。 教えてい ⑥学生時代にケガをし、 楽しみな気持ちです。 ただくことに対し ただきながら、 地域のことについ ⑦地元で働か て、 皆さま 仕事 緊張 理学 だけ ع て せ 療 共 て 法

第4土曜日は休診日です 火 月 水 金 木 外来医師担当表 米倉 宏明 第1稗田 米倉 宏明 田村 泰夫 田村 泰夫 田村 泰夫 午前 第3 第5 信大 小林 全国日赤からの 稗田 宏子 内科 稗田 宏子 久米典彦 8:30~11:30 応援医師 交替制 (8:30~11:30) 午後 (循環器科) 全国日赤からの 14:30~ 米倉 宏明 応援医師 16:00 外科 清水 公男 午前 清水 公男 佐久総合 検 査 検 査 休 診 第3週休診 9:00~11:30 (消化器科) 整形外科 交替制不定期 信州大学 小諸厚生 午前 大内 悦雄 大内 悦雄 大内 悦雄 大内 悦雄 (リウマチ科) 第1・3・5週 8:30~11:30 9:00~ 塩澤 律 9:30 9:00~ (リハビリ科) 午前 長野日赤 眼科 第1・3・5週 9:00~11:30

間 前 3 時 全 科 午 付 0 始 開 初 付 は 8 3 0 ŋ 日内科午後診は14:30~16:00まで

- ★曜日により診療開始時間が下記の時間帯になります
 - 8:30~ 外科 (火曜日)
 - (火・木・第1、第3、第5土曜日) 整形外科 9:00~
 - 第3、 第5土曜日) 9:00~